

第 29 回腫瘍病理セミナー・北信がんプロ FD 講演会

「小児脳腫瘍における分子メカニズム解析」

講師：荒川芳輝 先生（京都大学脳神経外科 特定講師）

日時：平成 29 年 12 月 13 日（水）18:00-19:30

場所：金沢医科大学基礎研究棟 3 階 大学院セミナー室（テレビ会議システムにて連携機関へ配信）

担当：金沢医科大学病理学 I 平田英周 講師



【講師紹介】

1997 年京都府立医科大学医学部卒業。2003 年京都大学大学院医学研究科早期修了（医学博士）、京都大学脳神経外科医員、英国癌研究所研究員を経て、2007 年より京都大学脳神経外科特定助教、2008 年同助教、2016 年より同特定講師。

【講演の内容】

小児脳腫瘍には稀な腫瘍型が多いことが特徴として挙げられるが、近年、次世代シーケンサーによる解析から新たな分子診断の枠組みが形成されつつある。本講演では小児脳腫瘍の概要に加えて、1. 小児悪性神経膠腫では H3. 3K27M および H3. 3G34R/V 変異が特徴的であること。2. Pilocytic astrocytoma は MAPK シグナルの異常（特に KIAA1549-BRAF fusion）に起因する特徴を有し、思春期以降の腫瘍増大停止がしばしば観察されること。3. Germ cell tumor では新たな変異遺伝子として BCORL1 及び JMJD1C が同定され、またメチル化による新たな分類も提唱されたこと。4. Medulloblastoma では旧来の 4 分類（WNT / SHH / Group 3 / Group 4）がさらに再分化されたこと。5. Ependymoma では C11orf95-RELA fusion 及び C11orf95-YAP1 fusion が予後不良ドライバー因子として明らかとなったこと。6. PNET は腫瘍型分類として新たに改定されたが、これらの腫瘍型においては分子診断と病理診断に大きな乖離が存在すること、などが文献及び自験例を引用しつつ詳細に解説された。

講演はテレビ会議システムを用いて各連携機関にも配信され、学内外から多数の臨床医及び基礎研究者が参加した。また講演終了後も活発な質疑応答と意見交換が行われ、大変有意義なセミナーとなった。

（金沢医科大学病理学 I 平田英周 記）